

平成30年度事業計画

活動方針

日本経済は企業業績の堅調な推移に支えられながら、緩やかながらも安定した成長が続いているが、依然として景気回復への実感は乏しいのが実情である。本年は、経済再生とデフレの脱却に向けて、成長戦略として掲げた具体的な政策への取り組みを一層強化し、誰もが実感できる景気の回復を実現していくことが包装業界においても最優先課題になる。

このような情勢の中で、日本の包装産業は今までに構築してきた技術力や幅広い知見を生かし、さらにこれからの社会の変化とニーズに応える、より高度で進化した包装の開発により、国際競争力を強化するとともに、昨今の課題であるサステナビリティ、インダストリー4.0等にも貢献していかなければならない。

協会は、こうした状況に鑑み、公益社団法人としての責任と自覚をもって、当会の基本事業である包装の知識及び技術の普及の推進や、次世代を担う包装人材の育成等の事業をさらに充実させ、豊かな社会の構築と活力ある包装産業の実現を目指して邁進する。

特に本年はTOKYO PACK 2018（東京国際包装展）の開催年であり、世界を代表する国際包装展にふさわしい内容と運営を図り、包装産業のグローバル展開にも寄与する。

以上のような内容を踏まえ、協会は次の事項を重点とした諸活動を展開する。

1. 包装の高度化・技術開発を支援する取り組み

ICT・IoTを軸とする製造業の革新として注目されているインダストリー4.0は、様々な分野において取り組みが始まっている。

協会ではこうした取り組みに対し、包装の側面から会員企業の未来を見据えた高度な応用と包装技術の開発を支援し、新しい包装ビジネスの出現に寄与できるよう努める。

2. 企業コンプライアンスとしての包装への対応支援

近年、包装には多様な人々による、多様な使用環境における、様々な社会的ニーズから企業コンプライアンスの必要性、重要性がますます高まっている。

食の安全・安心やセーフフード（Save Food）といった最近の社会からの要求に対する消費期限や賞味期限の延長、個包装化、輸送時の損傷低減、適切な包装材料の選択はその解決策の一例として挙げられる。

これらは商品によって様々な要求があり、それぞれ対応が求められている。

本年度はこれらの企業コンプライアンス及びそれに関わる包装技術開発の情報提供と取り組みの共有を推進する。

3. 包装教育事業の質的向上と内容の拡充支援

社会や経済の変化に伴い、包装はますます多様化・高度化しており、このような変化に対応できる優れた人材の育成が急務となっている。

当会事業の柱の一つとなっている包装管理士講座や包装アカデミーを始めとする包装教育事業の一層の質的向上と内容の拡充に努め、高度な包装技術の開発や新たな価値の創造などに寄与できる人材の育成を図る。

また、本事業は全国にある支部との連携のもとに、地域に密着したセミナー、研究会などの事業活動を通して、地域の包装産業の活性化と技術力の向上に貢献する。

4. 包装のグローバル化に向けた取り組み

日本の包装産業が世界で成長していくためには、その技術が本来持っている優位性を高め、知らしめるだけでなく、より一層の価値を高めるために、諸外国のニーズに適応した商品や包装を開発することが求められる。

当会は A P F (Asian Packaging Federation) 又、W P O (World Packaging Organisation) のメンバーとして各国の包装協会と連携して活動をしており、各国の包装産業とも一層の協力を深め、現地で役に立つ包装技術の普及に努める。

また当会は I S O 規格化における I S O / T C 1 2 2 (包装) の国際事務局としても活動しており、包装分野における国際的な標準化やルール作りに向けた取り組みを通じ、日本の技術や意見を世界の標準に反映できるよう標準化活動にも注力する。

5. TOKYO PACK 2018 の成功と活力ある包装産業の創出

本年10月に開催するTOKYO PACK 2018（東京国際包装展）は、今回が27回目の開催となる。

高度な日本の包装技術を世界に発信し、グローバルに情報交換ができる世界最大級の国際包装展にふさわしい展示会を目指す。

また次世代の包装を考える場として、世界の潮流と最先端の技術について情報提供を行い、包装産業の活力ある発展と社会生活の向上、さらに国際相互の理解を促進できる場としての拡充を図る。

事業計画

第1. 事業

1. 研修、育成、交流事業、普及啓発（公益目的事業 1）

<研修、育成事業>

各種の包装人材育成事業の中で、本年度は包装管理士講座が53回目の開催を迎える。ここ数年、本講座は受講希望者が定員数を大幅に超過し、受講希望に添えない状況が続いていた。そこで本年度より、生活者包装コースと輸送包装コースを一部分離することにより、定員数を増加し受け入れ枠を拡大することとした。また本年度は東京、名古屋、大阪、福岡及び仙台の5会場に隔年開催の札幌会場を加え全6会場にて実施する。

包装分野ではトップレベルの内容で実施されている包装アカデミーは、本年度も引き続き、輸送包装コース、食品包装コース、包装材料コース及び医薬品包装コースの4つのコースに各々15名程度の少人数の受講生で実施する。

包装に携わる人々に求められる知識や技術の提供と内外の最新情報提供を目的として実施されているセミナーやコースは、時代に適合した内容の提供が多く、近年では、一般消費者にとっての商品の安全・安心、そして利便性等を目指した包装開発、改善を主とした内容も多くなっている。これらの事業は各々の支部で開催されており、本年度も、引き続き各々の地域に見合った内容の提供を行なってゆく。

なお、すべての内容は当会のホームページで一般公開されており、包装に関心を持つ人々は参加が可能である。

1) 第53期包装管理士講座 本部・支部 6月開講～9月終講

開催地 : 東京、大阪、名古屋、福岡、仙台、札幌（6会場）

2) 包装アカデミー 東京本部

(1) 第32期輸送包装コース 6月開講～3月終講

(2) 第33期食品包装コース 6月開講～3月終講

(3) 第32期包装材料コース 6月開講～3月終講

(4) 第31期医薬品包装コース 6月開講～3月終講

3) 研究大会

(1) 第56回全日本包装技術研究大会 東京大会 11月

4) 研究会（講習会）

東京本部

(1) 包装資材部会 4月・9月・11月・2月・2月

(2) 生活者包装部会 4月・6月・7月・1月・3月

- (3) 包装情報部会 5月・6月・10月・12月・3月
- (4) 包装ラインシステム化部会 7月(2回)・8月・9月・11月・3月
- (5) 輸送包装部会 5月・8月・10月・12月・1月
- (6) 新潟県包装研究会 11月
- (7) 静岡県包装研究会 11月
- (8) 包装情報ステーション 8月・2月

関西支部

- (1) 会員フォーラム 4月・6月・7月・8月・9月・10月
12月・2月

中部支部

- (1) 包装資材研究例会 6月
- (2) 輸送包装研究例会 7月
- (3) 生活者包装研究例会 9月
- (4) 包装技術研究例会 10月
- (5) 包装技術講習会 11月
- (6) 包装研究懇話会 3月

西日本支部

- (1) 輸送包装研究会・生活者包装研究会 5月・12月

北海道支部

- (1) 包装懇話会 11月
- (2) 包装基礎セミナー 7月

東北支部

- (1) 包装研究会 (調整中)

5) 研修コース

東京本部

- (1) 第24回包装新人研修コース 4月
- (2) 第51回包装基礎コース 5月
- (3) 第35回フレキシブルパッケージコース 11月
- (4) 第14回緩衝包装設計コース 1月
- (5) 第44回段ボール包装設計コース 2月
- (6) 第9回食品包装コース 11月～3月
- (7) 第1回輸配送コース 9月(予定)

関西支部

- (1) 第25回包装基礎コース 5月
- (2) 第12回緩衝包装設計実践コース 10月
- (3) 第45回段ボール包装設計実習コース 1月

中部支部

(1) 第28回包装設計の基礎講座 5月

6) セミナー、シンポジウム

東京本部

(1) 化粧品包装セミナー 7月・11月

(2) パッケージイノベーションセミナー 9月

(3) 包装材料セミナー 1月

(4) 医薬品包装セミナー 3月

(5) 包装近未来シンポジウム 3月

7) 講演会・発表会

東京本部

(1) 2018パッケージングフォーラム 10月

中部支部

(1) 2018日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会 12月

(2) 第58回包装技術研究大会中部大会 2月

西日本支部

(1) 包装事例研究発表会 11月

東北支部

(1) 東北支部包装技術研究発表大会 10月

8) 包装懇話(談)会

東京本部

(1) 食品・流通包装懇話会 7月・9月・11月・2月

(2) 医薬品包装懇話会 6月・9月・11月・2月

(3) パッケージデザイン懇話会 5月・8月・11月・2月

(4) 輸送包装懇話会 7月・9月・2月・(他に別途見学会調整中)

関西支部

(1) 生活者包装研究懇談会 6月・9月・12月・2月

<交流事業>

1) 国内事業

(1) 見学会

東京本部 6月・10月・1月・3月

関西支部 11月・3月

中部支部 10月

西日本支部	4月・10月
北海道支部	10月
東北支部	11月

2) 海外事業 東京本部

- (1) 米国包装専門視察団の派遣 10月
 パックエクスポインターナショナル2018展（米国・シカゴ）の視察を中心に米国へ派遣
- (2) アジア包装連盟（APF）との連携
 理事会、総会、アジア包装会議、アジアスター2018コンテスト
 日本・東京 10月
- (3) 世界包装機構（WPO）との連携
 ① 理事会、ワールドスター2017の表彰式、世界包装会議
 オーストラリア・ゴールドコースト 5月
 ② 理事会、ワールドスター2018コンテスト、世界包装会議
 中国・済南市 11月
- (4) 国際包装研究機関連絡会（IAPRI）との連携
 IAPRI世界包装会議 中国・珠海 6月
- (5) 海外からの来日包装関係者の受入れ
- (6) 海外への講師および包装専門家の派遣

<普及啓発事業> 東京本部

本事業の中心となる日本パッケージングコンテストは、経済産業省、日本商工会議所、主婦連合会等の後援のもとに毎年開催されている。一般に対してもホームページからの募集を行っており参加が可能である。本年度も大学、公的機関および消費者団体の方々で構成された審査員によって選ばれる入賞製品をグッドパッケージとして（最高賞は経済産業大臣賞）TOKYO PACK 2018の会場において一般公開する。本年度もこれまでと同様の内容で開催し、選ばれたパッケージはすべて選定理由と写真付きで広報されるほか、英文で全世界に広報する。

木下賞は、授与された包装がその年の最高技術水準にあることもあり、最近では、これらの包装には生活の向上という意味から消費者が大変関心を示している。本年度も審査員は官学からの有識者で構成され、応募はホームページを通して一般にも公開されるので誰でも無料で応募できるが、審査基準は大変高くまた厳しいものとなっている。

- | | | |
|-------------------------|---------|-------------|
| 1) 第42回木下賞 | 審査選考：4月 | 表彰式：6月（総会時） |
| 2) 2018日本パッケージングコンテスト審査 | | 6月 |
| 3) 2018グッドパッケージング展 | | 10月 |

2. 展示会事業（公益目的事業 2） 東京本部

今年度は、2年に1回開催されているTOKYO PACK（東京国際包装展）の開催年である。包装材料、包装機械、包装材料加工機械、包装・環境関連機材、物流システム機器等の展示を目的とした国際包装展で、今回は「考えよう、地球をまもるパッケージ」のテーマのもとに開催する。世界でも最先端をゆく国内包装技術の発信、環境やこれからの高齢化社会に対応した日本独特の包装技術の展示などは国内のみならず海外の包装関係者からも大きな関心が寄せられている。近年、アジア各国を中心とした海外からの来場者が増加傾向にあり、各種イベントを併催行事として企画し、交流を図っている。なお、TOKYO PACKの開催年は、暮らしの包装商品展は準備年となり、同展については国内に対し広く一般に広報活動を行う。

- 1) TOKYO PACK 2018（2018東京国際包装展）
10月2日(火)～5日(金) 4日間 東京ビッグサイト
- 2) 暮らしの包装商品展2019の開催準備
2019年10月予定（2日間） 東京駅前「KITTE」
- 3) アジア主要各国の国際包装展へのPR小間での参加

3. 調査研究事業（公益目的事業 3） 東京本部

現在、日本は、ISO/TC122(包装)の議長及び、国際幹事国を引受けており、当会は、包装分野の国内審議団体のほかに、国際事務局としてISO規格の開発・改廃を進め、これらを通じて国際間の相互理解促進に寄与する。本年度は、アクセシブルデザインのISO22015「取扱いと操作」の継続を行なう。また、「包装と環境に関する国際標準化開発」ではISO4180「包装貨物試験法」について、国際幹事国として支援していく。さらに、WG16「小口輸送のための温度制御輸送包装の国際標準化」は、国際幹事国候補として調整を行っている。また、包装は国民の日常生活に深くかかわっており、絶えず、その標準化を見直し、生活し易い環境を整えることが求められていることから、本年度もJIS規格の見直し作業を精力的に進める。

日本の包装産業出荷統計に関する調査研究は、昭和38年の創立以来欠かすことなく継続しており、本年度も平成29年の統計を刊行する。これは、当会ホームページで紹介されるほか、英文で世界各国に公表される。

- 1) ISO/TC122(包装)の議長・国際幹事国(事務局)としての活動
 - ・各規格委員会の国際会議
- 2) ISO/TC122(包装)の国内審議団体としての調査研究及び標準開発活動
 - (1) 包装全般、危険物輸送容器包装等の定期見直し規格に関する調査研究
 - (2) 「包装と環境に関する国際標準化開発」に対する調査研究
 - ・包装貨物試験方法一通則の国際標準化

- ・再封性小児用安全包装システムのための機械的試験方法(改正)の国際標準化
 - ・小口輸送のための温度制御輸送包装の国際標準化（新規）
 - ・医薬品包装のための不正開封確認機能の国際標準化（新規）
 - ・医薬品のタンパー包装の保障と特徴（新規）
 - ・循環経済パッケージに関する包装標準化動向調査
- (3) 「包装のアクセシブルデザイン」に関する国際規格化の推進
- ・第18回国際会議開催（11月予定、オランダ）

3) J I S 制定・改正に関する調査研究

- (1) 包装の環境適正化に関する J I S の原案の継続事業の実施
- ・ JIS Z 1707 食品包装用プラスチックフィルム通則の改正
 - ・ JIS Z 0232 包装貨物・振動試験方法の改正
 - ・ アクセシブルデザイン（情報と表示）の制定

(2) 5年経過した J I S の定期見直し

上記調査研究は、政府関連機関からの委託事業であり、来年度は、今後
に検討を行う。

4) 平成29年の日本の包装産業出荷統計に関する調査研究

5) 包装技術教育高度化に関する研究・開発

4. 出版関連事業（収益事業） 東京本部

月刊誌「包装技術」は、包装専門家で構成された編集委員会によって企画が行なわれており、創立以来、欠号なく刊行されている。本年度も引続き一層の内容の充実を図りながら月刊誌として毎月刊行する。本誌は、包装技術及び関連情報が中心となっているが、当会事業の案内や調査研究の成果、さらに新会員の紹介等幅広い内容を掲載し公開している。本事業は収益事業として、一般による購読収入と広告収入によって進められている。本年度も引続き編集委員会主導のもとで編集に当たる。

なお、各地の図書館をはじめ関心を持つ公的機関には、この機関誌を寄贈している。

また、1995年に最後に発刊した包装技術便覧を全面改訂版(第5版)として本年の完成を目指し作業を進める。

- | | |
|-----------------------------|--------|
| 1) 機関誌「包装技術」の刊行 | 月刊 |
| 2) 包装技術便覧発刊準備作業 | 9月完成予定 |
| 3) 「Q & A 容器包装規制基準の手引き」誌の編纂 | |

第2. 諸 会 議

- 1) 理事会 5月22日(火)、6月19日(火)、3月 如水會館
- 2) 常務理事会 4回開催 JPI 会議室
- 3) 全国支部連絡会 5月・11月 JPI 会議室・幕張メッセ
- 4) 本部・支部諸会議 本支部単位で運営委員会・講習会委員会等を逐次開催

第3. 行事・その他の活動

1) 行事

- (1) 第7回定時総会 6月19日(火) 如水會館

(2) 新年会

- 東京本部 2019年包装界合同新年会 1月 9日(水) 椿山荘

他、支部開催予定(1月)

大阪 新春会員交流会/講演会

名古屋 新年賀詞交歓会

札幌 新春賀詞交歓会/新春研究会

仙台 新年名刺交換会/講演会

2) 会員交流会・特別講演会

中部支部 6月 西日本支部 7月

北海道支部 6月 東北支部 6月

3) その他の活動

- (1) インターネットによる最新情報の提供

- (2) Eメールによる協会活動内容の国内配信

- (3) J P I 関連団体との連絡提携

日本包装専士会、日本包装管理士会、日本包装コンサルタント協会、
技術士包装物流会、日本包装学会 他

- (4) 研究機関、消費者団体、市民団体等との連携

(地独)大阪産業技術研究所、兵庫県工業技術センター、

あいち産業科学技術総合センター 他